

# みずほ銀行が広告ビジネス、サイバーエージェントと提携

2024/01/25 17:17 日本経済新聞電子版 548文字

---

みずほ銀行はサイバーエージェントなどと組み、今年春をめどに広告ビジネスを始める。銀行が持つ膨大な情報を生かし、企業が地域や属性を絞って広告を出せるようにする。ATMコーナーにあるデジタルサイネージやダイレクトメールの投函（とうかん）から始め、Googleやフェイスブックにも広告を出稿できるようにする計画だ。

みずほ銀行では約2300万の個人客が口座を持つ。銀行口座を出入りするお金の流れやクレジットカードの利用歴といった情報をもとに、国勢調査などを重ねて地域ごとの年収や決済額のデータを加工のうえ提供している。みずほは広告に強いサイバーエージェントの知見を組み合わせ、新たな顧客を増やしたい企業のマーケティング活動に使えるようにする。

広告を始めるにあたっては、専用のコールセンターを設けるなどして個人が受け取りや配信を拒めるようにする。同意の有無を尋ねるシステムはフライウィール（東京・千代田）がつくる。銀行の個人情報提携先に渡ることはないという。

銀行による広告ビジネスは2021年11月施行の改正銀行法で認められた。大手行では三菱UFJ銀行もサイバーエージェントと展開するほか、三井住友フィナンシャルグループが電通グループと共同出資会社をつくった。銀行のアプリに企業の広告を配信するなどしている。

---

許諾番号30097370 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.